

## こどもの病気「肺炎」

ウイルスや細菌によって、気管支炎や肺炎に進行することがあります。肺まで炎症をおこしていれば肺炎となります。近頃は、肺炎になったからといって、かならずしも入院する必要はないようです。でも、お子さんの場合は、状態が変化しやすいので、様子をしっかりとみてあげましょう。お医者さんの指示にしたがってくださいね。

- 原因：肺炎球菌、インフルエンザ菌などの細菌や、マイコプラズマによっておこります。ウイルスの感染によっておこることもあります。
- 症状：かぜの症状から、咳がひどくなってゼイゼイというようになります。息がしにくくなり、肩で息をすることがあります。
- 治療：去痰剤や気管支拡張剤が処方されます。吸入をすると楽になることもあります。細菌が原因なら抗生剤が処方されることもあります。

(治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。)

- 病院に行くタイミング：咳がひどくなってきたら受診してください。
- いつから学校（保育所）にいったいいい？：咳がおさまって、元気になったら大丈夫です。
- おうちでできること：

休む・・・家でゆっくりしていきましょう。

湿度・・・お部屋の湿度を上げましょう。加湿器を使う。タオルを干すなど、工夫をしましょう。

お風呂・・・息苦しいときや、熱の高いとき以外は入ってもかまいません。

水分・・・少しずつ何度もとりましょう。

食べ物・・・特に制限はありません。食べられるものをあげましょう。

## 今回のおはなし「副作用」

くすりにには、私たちが必要とする作用と、のぞんでいない作用があります。「かぜぐすりをのんで、眠くなる」や「抗がん剤で、髪の毛が抜ける」といったことは、のぞんでいない作用であり、それらはすべて「副作用」ということになります。

くすりは、少なすぎでは効きませんし、多すぎると副作用が出ます。たとえば、熱さましはたくさん使うと、低体温になってしまうこともありますし、むかつきや吐気のおこることがあります。処方は、その患者さんのからだの大きさと状態にあわせていますので、正しい量と用法を守って使ってください。

また、長期間のむと、肝臓や腎臓に影響する場合があります。定期的に検査を受け必要のあるくすりもあります。

くすりをのんで、じんましんがでたり、ひどい場合はショック状態になることがあります。これは、薬物アレルギーといって、人が異物に対してもつ、もともとの防御反応が、くすりに対しておこってしまったためです。健康なときには大丈夫でも、体力（免疫力）が落ちているときにだけ反応してしまう場合もあります。特定の食べ物のアレルギーを持つ人にも、反応が出ることがありますので、必ずお医者さんに伝えましょう。

食べ物やサプリメントとの組み合わせによって、副作用の出る場合があります。何種類かのくすりを飲むことによりお互いが影響しあって、副作用の出る場合があります。いくつかのお医者さんにかかっておられるかたは、必ず伝えてくださいね。おくすり手帳をつかきましょう。

気になることがあれば、積極的に薬剤師に聞いてください。